

安蔵 つうしん

No. 1 「鈴木安蔵を讃える会」ニュース

発行：2022(令和4)年6月26日(日) 国連憲章の調印

〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21

(「鈴木安蔵を讃える会」会長) 志賀勝明

TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524

6月26日現在 **会員は309名・募金協力者は57名に**
今後のご協力もよろしくお願いたします



◀南相馬市小高区の
鈴木安蔵旧宅

▼今年三月十六日二三時
三六分、福島県沖が震源
の震度六強の大きな地震
で、旧宅玄関脇の「竹垣」
が破損し、庭の「石灯籠」
も倒壊破損しました。現在
業者に修復を依頼していま
すが、順番待ちです。

本会のこれまでの活動

○本会設立前の活動は、3.11の原発事故で安蔵旧宅のある小高区は避難区域指定でしたが、旧宅に被災地視察の方数千人を案内していました。旧宅の取り壊しが検討されましたが、保存のために努力する。その後旧宅は「国の登録有形文化財」の指定を受けました。

1. 2020年夏、「鈴木安蔵を讃える会」を発足。会員の募集。
2. 旧宅の維持保存のため建設業者と検討し、補修工事を開始。クリーニング、清掃など業者に依頼して毎月実施。
3. 2021年10月、安蔵旧宅前に「憲法学者鈴木安蔵生誕之地」の案内標柱を建立する。(「安蔵つうしん」No.2参照)
4. 2021年12月、書面での「総会」実施。返送されたアンケートなどの意見を役員で検討する。
5. 地元の指導者に活動を支えていただくため、南相馬市門馬和夫市長、市議会議員22名に入会を要請し、現在議員さん4名が入会されています。



会のこれからの活動予定

1. 今年3月16日の地震で倒壊した石灯籠や玄関脇の竹垣の修復。障子の張り替え。専門業者による清掃や除草の徹底。また耐震工事と旧宅活用のための相談。
2. 7月に「会費等の納入書」と「安蔵つうしん」を郵送し、会費や協力金の募金活動。
3. 鈴木安蔵の「人物と業績紹介の掲示板」建立を検討し、業者との話し合い。

アンケートのまとめ 2021年総会のアンケートの返送ありがとうございます。

返送いただいた112名分の一部の紹介です。活動に生かしたいと思います。

Q1 安蔵旧宅の活用について

- アートギャラリー、ワークショップ、哲学カフェ、読書室、ミニコンサートルーム、お茶会、映画会、若い人に戦争を知る映画DVDの会、郷土芸能鑑賞会、『日本の青空』上映会。
- 憲法成立過程などのお話を聞く会、「今憲法があぶない」等のお話会、研究会。
- 金子勝氏のお話を聞く会。 ○他の九条の会や地元の方との交流会があれば嬉しい
- 安蔵に関する書物の紹介、保管やデータ化、自由に閲覧できる場にする。
- 鈴木氏の生涯を展示。スイッチで生き生きした安蔵氏の動画が見れればよい。
- 憲法原本の複製や、外国の憲法の展示。 ○標柱や看板、駐車場の整備を。
- 文化財も地元で「生きて」こそ長く保存できる。 ○除草剤の散布は注意して下さい。

Q2 会でどんな活動してほしいか

- 定期刊行物の年数回の発行、送付を、会員の声を載せる、ネットの活用を。
- 憲法の講演会、憲法や平和の俳句、川柳、短歌、詩、創作文などで交流をはかる。
- 無理なさらずに勉強会や講演会、被災地巡りのツアーを。ツアーの案内者の育成を
- 学校行事に「郷土の偉人から学ぶ」を。同県内の憲法学者鈴木義男さんの顕彰も。
- 町内めぐり、柳美里さんのフルハウスなどとの連携、SNSでの発信はどうか。
- あまり堅すぎると一般市民が目を向けてくれないので、「ちょっと楽しそうなもの」もまぜて、まずはたくさんの人にみてもらおう。 ○若い人も入れる会にする。

Q3 その他

- 会費の納入方法、徴収期日の明示を。何年分かまとめて会費を納めたい。
- 会の性格からも、日付は西暦がふさわしい。「令和」使用には違和感がある。
- コロナ禍の仲で、役員の皆様の会の設立や活動に敬意と感謝を申し上げます。
- 会の設立まで大変なご苦労ですがよろしく。無理なさらずに運営してください
- 会計係は専従の方ですか。 会計係については報酬を受けないと大変です。
- 反原発の勇氣ある会長志賀勝明さん、恩師大友章生先生の案内に感動しました。
- 大学1年時、鈴木先生の法学の講義をうけ、再びこの機会を得て大事にしたい
- 長野県の「満蒙開拓平和記念館」をヒントに、学習の場になればいいですね。
- 小中学校での出張授業を実施すれば地域の誇りになるのでは。知名度が低いのは発信が少ないこと、小中高校生への働きかけが少ないせいです。
- 冊子『安蔵を知るために』すばらしい。全ページを読み、取り組みに胸を打たれた。
- 冊子の内容、人となりもとてもわかりやすく、やはり入会して良かったと思う。
- 冊子「安蔵を知るために」はよくできているが、戦争中の安蔵について大東亜共栄圏万歳の立場を表明していたと聞き、美化しすぎてはいませんか。
- 全会員に「憲法草案要綱」を配布 ○安蔵氏とGHQとのかかわりを知りたい。
- 予算は公共的な活動なので、自治体からの「補助金・助成金」を要請し(ヒモ付きでなく)半永久的な地盤固めも考える。○市や市教委とのつながりを大切に。
- コロナが落ち着いたらぜひ行ってみたい、それまでガマンガマンです。
- 憲法を守る「とりで」になってほしい。「讀える会」はとても重要です。
- 札幌、関東、仙台、札幌、関西などから遠いですが支援し支えたい。
- 安蔵さんをずっと身近に感じるようになりました。 ○是非一度伺いたい。

■以上、アンケートの中から代表的なものを選んでみました。役員はアンケートのすべてを読み、今後の活動に生かすよう検討しています。



安蔵 つうしん

No. 2 「鈴木安蔵を讃える会」ニュース

発行：2022(令和4)年7月7日(木) 盧溝橋で日中が開戦
〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21
(「鈴木安蔵を讃える会」会長) 志賀勝明
TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524

「鈴木安蔵を讃える会」新役員の紹介

顧問の若松丈太郎氏と学術参与の吉原泰助氏のご逝去、また役員の転居などで、7月1日に次のように役員を改選いたしました。(敬称略)

会 長：志賀勝明
副会長：大友章生 國分富夫
事務局：山崎健一 若松麟二
監 事：大内秀夫 高橋 彰
顧 問：鈴木新樹 平田慶肇 菅田俊雄
学術参与：金子 勝 阪本尚文 今野順夫

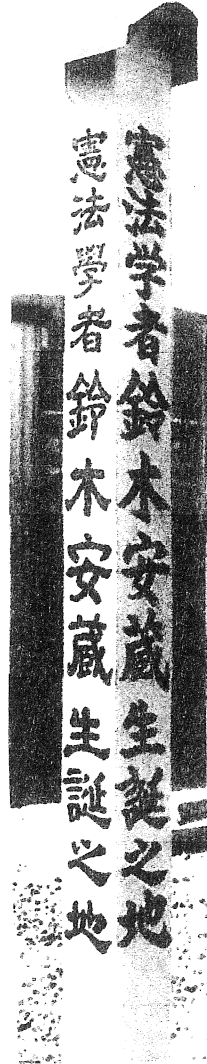
◆役員とは別に、市教育委員会の方々のご指導やご支援を受けてはじめて活動が成り立っています。

◆新たに学術参与に今野順夫さん(元福島大学学長)、事務局に若松麟二さんに加わっていただきました。

◆安蔵旧宅がある「南相馬市小高区」は、事故原発から20キロ圏内で避難区域指定が5年間も続き、解除後避難先から戻る住民はわずかで家屋の取り壊しが進み町は一変。安蔵旧宅の周辺も寂しく悲しい状況です。

◆震災前、会長はじめ役員のお多くは小高区や原町区に住んでいましたが、現在は小高区を離れ近隣の市に移住して遠方の地から会を設立し、コロナ禍も加わり、様々な困難の中で運営や活動を行っています。

◆今後、役員でも会員でも小高区や若い人にも加わっていただきたい、事務や会計処理もアナログからデジタル化したいものだ、と話し合っています。



▲鈴木安蔵旧宅の案内標柱

- 標柱は高さ2mの青森ヒバ(ヒノキアスナロ)の角材柱の二面に、楷書と隷書風で「憲法学者鈴木安蔵生誕之地」と墨書されています。
- 経費のこともあり、書家に依頼せずに事務局員が揮毫しました。『朝日新聞』「多事奏論」〈裏面〉の中で、駒野剛記者に「高々と墨書された文字が誇らしげに躍って見えた」と記され、嬉しいことです。

○駒野記者は5月初め、志賀会長の案内で安蔵旧宅を訪問しました。本会にとっても大変嬉しい評論です。

2022年(令和4年)5月25日(水) 享月 15 オピニオン

多事奏論



駒野 剛
オピニオン記者
編集者

JR常磐線小高駅から西へ約10分歩くと、2軒ほどの木製標柱が立っている。

「憲法学者 鈴木安蔵 生誕之地」

高々と墨書された文字が誇らしげに躍って見えた。だが、鈴木安蔵とは誰か。岩波書店の広辞苑や三省堂の大辞林には記載がない。小学館の大辞泉(いずれも電子版)でようやく見つかった。

いわく、「戦後は高野岩三郎らと憲法研究会を結成。『憲法草案要綱』の起草にあたった」とある。要綱は何かと再び大辞泉を引くと鈴木らの「憲法研究会が発表した憲法の草案。日本国憲法の基礎となったGHQ草案に影響を与えた」と記す。

鈴木らの活動は歴史の流れの中で忘れられた。憲法は連合国軍総司令部(GHQ)が草案を作り、それを日本が受け入れたという物語が残り、ゆえに「押しつけ憲法」と批判され、改憲の名分にされてきた。

だが、生誕の地、福島県南相馬市の標柱の場所に立つ鈴木の家には全国から見学者が訪れているという。この家を「憲法のふるさと」として保存、活用しようと「鈴木安蔵を語る会」が組織されている。「さらに多くの人が鈴木氏の業績を知ってほしい」と同会の志賀勝明会長は語る。

1945年8月の敗戦直後、社会思想家の高野岩三郎らは日本文化人連盟の結成を呼びかけた。10月29日、創立準備会が開かれ、高野は出席した鈴木に「憲法も改正しなくてはならない。憲法をやってきた君が努力せよ」と働きかけた。

憲法を一から作る時、鈴木は絶好の人材だった。戦前、治安維持法違反で投獄後、日本の憲法の問題点を学ぼうと、自由民権運動の指導者の一人植木枝盛らのつくった私擬憲法案や世界の憲法の研究を重ねた。

忘れられた憲法草案 受け継ぎたい先人の思い

11月5日、彼を幹事役に憲法研究会の初会合があり、毎週水曜日に新憲法の条項を話し合った。最終案は12月26日にまとめられ、首相官邸に渡され、新聞発表された。

28日の朝日新聞朝刊に「統治権は国民に」の見出しで憲法草案要綱が載った。

冒頭「日本国の統治権は日本国民より発す」と宣言。国民主権をうたい、天皇が主権者とした旧憲法の全否定から始まった。

「国民は民主主義並平和の理想に基づく人格完成社会道徳確立諸民族との協同に努むるの義務を有す」という、日本国憲法の平和主義に連なる条項も盛り込まれている。

政府も改憲案を練るが天皇主権の基本を変えない小手先の改正にとどまっていた。

軍部が天皇主権に兼じ国家を独裁したのが侵略の起点と見なしたGHQは、国民主権への根本変更が不可欠と考えた。要綱が世に出たのはこの段階で、後のGHQの草案作りに少なからぬ影響を与えたのだ。

集土の中、果敢に議論し、日本のあるべき姿を求め、自ら憲法を作ろうとした人々がいたという事実を忘れてはなるまい。

ロシアのウクライナ侵略後、憲法の考え方に影響が出ている。朝日新聞の世論調査で、憲法を变える必要があるかとの質問に「ある」と答えた人が半数を超えた。戦争が起きるかも知れないとの不安を以前より「感じるようになった」も8割に及ぶ。連日、悪行を映像で見せられれば当然だろう。

一方、「防衛費を倍に増やせ」とか「核兵器共有の議論を始めろ」など、従来の専守防衛の枠を超え、非核三原則を否定する乱暴な議論が自民党から出ている。

こうたえず冷静に考えよ。倍増は東アジアの軍拡競争に油を注ぐ。被爆国の核武装は核廃絶の悲願を完全否定する。何よりウクライナは、ほぼ専守防衛で戦つがゆえに世界の支援を受けている事実も見よ。

条文の不備の見直しは当然だが、日本の礎、平和主義、国民主権、基本的人権の尊重大原則は、揺るがしてはならない。

鈴木の家は東日本大震災で傷ついたが、今も立ち続けている。私たちが憲法に託した鈴木らの思いを受け継ぎたい。



安蔵 つうしん

No. 3 「鈴木安蔵を讃える会」ニュース

発行：2022(令和4)年7月16日(土) 米国原爆実験に成功

〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21

(「鈴木安蔵を讃える会」会長) 志賀勝明

TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524

前川喜平氏も「鈴木安蔵」の業績を高く評価

＜昨年6月20日の『東京新聞』＞

21

11版

2021年(令和3年)6月20日(日曜日)

『東京新聞』の「本音のコラム」



十八日付の本紙夕刊は、福島県南相馬市の鈴木安蔵の生家を記念館とする計画を伝え、鈴木を「日本国憲法の間接的起草者」と紹介していた。

鈴木は京都帝大在学中に治安維持法違反で投獄された。出獄後の一九三三年、吉野作造の支援による研究成果「憲法の歴史的研究」を著すも即日発表処分とされる。

一九三六年、鈴木は自由民権運動の思想家植木枝盛が起草した「日本憲法」を発見する。そこには「日本国ノ最上ノ権(主権)ハ日本国民ニ屬ス」と書かれていた。

敗戦後、鈴木は「憲法研究会」に参画し「憲法草案要綱」を起草。この

鈴木安蔵

時「(植木ら)祖先以来の伝統を生かして本道の民主国家を造らなければと意欲に燃えた」と後に語っている。GHQは「憲法草案の自由主義的・民主主義的内容を高く評価し、GHQ草案を起草する際の参考とした。研究会の一人、森戸辰男にも獄中経験があった。衆議院議員となった森戸は帝國議会の委員会で生存権の追加を提案。今の二五条になった。憲法九七条は「この憲法が日本國民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であり、「過去の幾多の試練に堪へたものだ」と言う。そこには植木枝盛や吉野作造、森戸辰男や鈴木安蔵の努力と試練が含まれている。この憲法は決して押し付け憲法ではない。(現代教育行政研究会代表)

前川喜平

時「(植木ら)祖先以来の伝統を生かして本道の民主国家を造らなければと意欲に燃えた」と後に語っている。GHQは「憲法草案の自由主義的・民主主義的内容を高く評価し、GHQ草案を起草する際の参考とした。研究会の一人、森戸辰男にも獄中経験があった。衆議院議員となった森戸は帝國議会の委員会で生存権の追加を提案。今の二五条になった。憲法九七条は「この憲法が日本國民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であり、「過去の幾多の試練に堪へたものだ」と言う。そこには植木枝盛や吉野作造、森戸辰男や鈴木安蔵の努力と試練が含まれている。この憲法は決して押し付け憲法ではない。(現代教育行政研究会代表)

2021.6.20

○安蔵について、新聞、テレビ、雑誌、著作物で、また教科書や参考書での若い人たちへの発信が大事ですね。映画『日本の青空』の功績は大でした！

＜事務連絡＞ お心当たりの方、お知らせください

本会通帳に入金されていて、“入金月日(令和2年12月～3年11月)、カタカナの氏名、送金額2,000円～10,000円”は分かるのですが、「入会申込書」が届いていないため、住所が不明で資料などの郵送ができない方が4名おられます。「送金したのに事務局から一度も連絡がない」という方、お心当たりの方がおられましたら、事務局(山崎TEL090-7527-5453)へご一報ください。

鈴木安蔵氏がかつて静岡大学で教鞭を執られたことから、同大学同窓会東京支部会報の「富嶽」で、本会が紹介されています。

静岡大学同窓会報で「鈴木安蔵を讃える会」を紹介

鈴木安蔵先生の生家を保存するとりくみ紹介

鈴木安蔵先生は「日本国憲法の間接的起草者」と呼ばれ、1952年から静岡大学教授、文理学部長として学生の指導にあたってこられました。鈴木先生のゼミ生だった同窓生も多くいらつしやいます。鈴木安蔵先生の生家は福島県、南相馬市小高区にあります。この地は東日本大震災にともなう東京電力福

島第一原子力発電所の事故により一時全住民が避難することになりました。今、被災した南相馬から復興の願いをこめて「憲法の原点を守れ」と鈴木先生の生家を保存するとりくみが進んでいます。中心になっているのは元漁師の方で、津波で自宅も船も流されて、原発事故で避難を余儀なくされた被災者の一人です。連絡先 問合せ先 南相馬市文化財係 0244-245284 「鈴木安蔵を讃える会」 志賀勝明 0244-264645

2021年12月10日

富嶽



静岡大学岳陵会 東京支部会報

〒101-0041 東京都千代田区 神田須田町1-3 NAビル4階 東京千代田法律事務所内 電話 080-9559-1121 Eメール gakuryokaitokyo@yahoo.co.jp (揮毫は土屋公猷氏=旧制) (静岡同窓会元会長による)

＜事務局より＞

◆今年度の会費について、大変面倒ですが同封の

会費等の納入書とともに、納入をよろしくお願いいたします。

◆本会の最初の収入の2020年9月15日から2022年3月31日までの収入支出の会計について、6月12日に監査を行いました。また役員会もコロナ感染が不安なため、「書面役員会」として電話やメールで意見をやり取りしました。

◆冊子『鈴木安蔵を知るために』を昨年12月に発行し皆様に郵送しましたが、もしも届いていない方は事務局へご一報をいただきたいと思ひます。

◆「安蔵つうしん」を手作りの不定期発行で始めてみました。皆様のご寄稿を500文字以内で(例・鈴木安蔵のこと、憲法のこと、改憲の動きなど)、事務局山崎まで(Eメール:yamazakiken1@gmail.com TEL090-7527-5453)お寄せください。

福島県南相馬市小高区出身 憲法学者・「日本国憲法の間接的起草者」 鈴木安蔵を知るために

- 1. 「歳時草子 鈴木安蔵」 静岡大学名誉教授 金子 昌良
2. 「日本国憲法の間接的起草者-鈴木安蔵」 静岡大学学長 吉原肇助氏
3. 「鈴木安蔵の生家」 大塚明徳氏
4. 「鈴木安蔵を知るために」 静岡大学同窓会 山崎 幸一

鈴木安蔵を讃える会



安蔵 つうしん

No. 4 「鈴木安蔵を讃える会」ニュース

発行：2022(令和4)年11月15日(火)

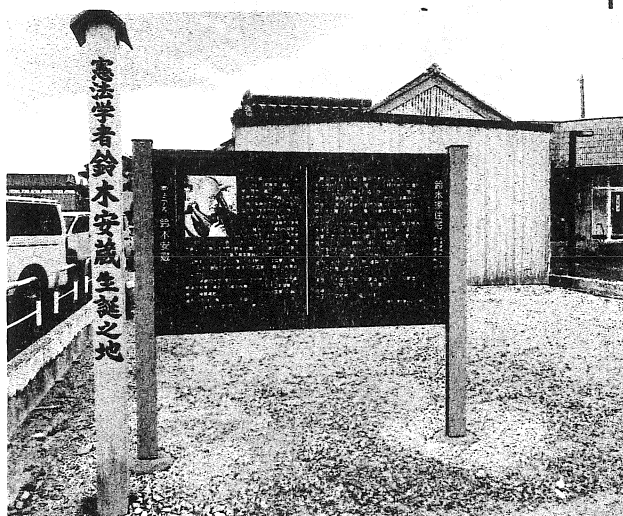
〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21

「鈴木安蔵を讃える会」会長 志賀勝明

TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524

鈴木家住宅に「説明看板」が設置されました

鈴木家住宅（安蔵の実家）に、安蔵の業績と国登録有形文化財の住宅の「説明看板」が、十一月十一日に設置されました。経費の約四十万円は、会員や協力者の皆さまからの会費で賄われ、心より御礼を申し上げます。美しく立派な説明看板で、大きさは横幅二m、高さ一・八m。小高区駅通りに面して歩いて歩行者に目につきやすい。脇に見学者用の駐車スペースも確保されています。



「看板」の内容は下記のとおりです。

憲法学者 鈴木安蔵



鈴木安蔵は1904(明治37)年3月3日に、福島県小高町(現南相馬市小高区)で生まれた。相馬中学校(現相馬高校)、仙台の第二高等学校を経て、京都帝国大学文学部哲学科に入学するが、翌年経済学部へ転部する。

1926年1月の学連事件で逮捕(治安維持法の初適用)、有罪となり大学を自主退学する。2年間の入獄中に研究に没頭し、日本初の社会科学としての憲法学を確率した。第二次世界大戦後、民間の7人で構成された「憲法研究会」の中心として「憲法草案要綱」を作成し1945年12月に公表する。それがGHQに着目され、現在の日本国憲法の骨子となる。その意味で鈴木安蔵は「日本国憲法の間接的起草者」とよばれる。

その後静岡大学・愛知大学・立正大学などで学生を指導。戦争を放棄し基本的人権を保障した民主的な日本国憲法の普及と護憲運動に力を尽くした。2007年、日本国憲法の誕生過程は『日本の青空』として映画化された。

1983(昭和58)年8月7日に、79歳で死去された。

鈴木家住宅 国登録有形文化財

憲法学者鈴木安蔵の義兄にあたる鈴木武之介は、明治時代に水戸から小高に移り、林商會に就職した。この会社では薬品や酒を含めて手広く商品を取り扱い郵便局をも営んでいた。武之介は薬剤師の免許を取得して薬局の部門を譲られ、その後代々、東日本大震災まで小高で林薬局の看板を掲げてきた。

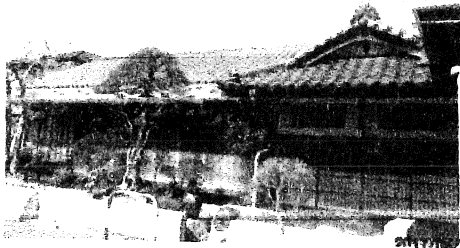
武之介が大正後期に建てた現存する主屋は接客を主として利用されてきた。建物が軒を並べる小高の市街地における間口の比較的狭い敷地を最大限に活かし、趣向を凝らして縦長に造られた庭を楽しむ、開放的な空間が作られている。

往時の商人の暮らし方を今日に伝える建物で、室内の多様な造作や壁、建具を含めて大変良好な状態で継承されている。

構造 木造、平屋、切妻造、東面に入母屋造の玄関及び庇付、棧瓦葺

2022年11月「鈴木安蔵を讃える会」建立

明治39年、鈴木良雄の遺族を見舞った河東碧梧桐



▲鈴木安蔵旧宅の外観と居間。

寒い時雨の日、安蔵は1歳8カ月でした

正岡子規の高弟で高浜虚子と並び称される俳人河東碧梧桐は、1906(明治39)年俳句行脚のため、東北、北海道、北陸へと旅します。

当時俳句が大変盛んだった中村町(相馬市)や小高町(南相馬市小高区)を訪ね、11月9日には小高の俳人大曲駒村の案内で、2年前の1904年2月12日27歳で病死した鈴木良雄よせい(安蔵の父・小高銀行支配人代理・俳人で俳号は余生よせい)の墓に参り、遺族である良雄の母と良雄の妻ルイ、良雄の長女テルを訪ねます。安蔵は1904年3月3日生まれですから、その時まだ1歳8カ月で母ルイに抱かれていたことでしょう。時雨の寒い日だったようです。

その訪問のことを、碧梧桐は旅行記『三千里』「十一月九日。曇。」で、次のように記しています。

「朝、余生の墓に参る。余生に面識はなかったけれ共、俳句の上では此地方の知己であった。年若うして妻子あり、身は不治の病に臥す、など言ひおこした事を想ひ出す。弟露生山茶花を挿し、駒村野菊とぬるで紅葉を挿す。寒い風につれて時雨が衣袂にこぼれる。 / 哀れなる人に時雨の句を申す / 余生の寡婦其遺子にも会ふ。 / 我を見て泣く人よ寒し我も泣く」

3年前の2019年5月28日、本会の設立準備のため、鈴木安蔵旧宅見学会に10人ほどが集まりました。薬局だった店舗部分は取り壊されていて、まず屋敷の周囲を見学。さらに皆さんで玄関から屋敷内に入ったところ、居間に掲げられていた短冊「余生葉前

哀れなる人に時雨の句を申す 碧」を、本会の顧問で詩人の若松丈太郎さん(2021年4月21日逝去)が見つけた、大変興奮しておられました。この短冊こそ、碧梧桐が明治39年に小高を訪ね良雄の遺族を見舞ったことを裏づける大変貴重なものです。

(以上、『若松丈太郎著作集 第2巻』相馬地方と近現代文学(コールサック社発行)の記述、また南相馬市原町区の「はらまち九条の会」発行の会報『九条はらまち』No.333若松丈太郎講演会要旨を参考にいたしました。)



▲9月に剪定や整備を終えた安蔵住宅の「通り庭」。京都の庭師が造園したと言われ、立派な石灯籠を中心に大小の石を配置した枯山水の庭を前に、座敷で客をもてなしたと思われます。



安蔵 つうしん

No. 5 「鈴木安蔵を讃える会」ニュース
発行：2022(令和4)年11月25日(金)
〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21
「鈴木安蔵を讃える会」会長 志賀勝明
TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524

金子 勝先生の新刊紹介

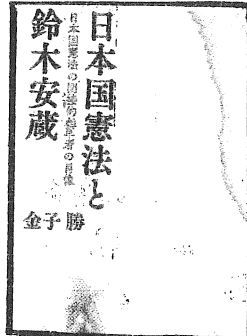
『日本国憲法と鈴木安蔵』

日本国憲法の間接的起草者の肖像』

本会学術参与の金子勝先生が、『日本国憲法と鈴木安蔵』を出版されました。金子勝先生は愛知大学大学院で鈴木安蔵先生に師事され、現在立正大学名誉教授。鈴木安蔵先生の信念「憲法は民衆の幸福のためにある」の敷衍と、安蔵先生の遺志を継承され、現憲法の普及や護憲活動のために尽力されています。



金子 勝先生



今年8月15日、八朔社から発行された『日本国憲法と鈴木安蔵』¥1200E。多くの方々に読んでいただきたい著書です。

- 新刊は、2004年8月に南相馬市の浮舟会館で開催された「鈴木安蔵生誕百年記念シンポジウム」で金子先生が講演されたことに、加筆されたものです。
- 内容は、鈴木安蔵の思想と憲法学の業績を、1.小高時代・相馬中学校時代 2. 第二高等学校時代 3. 京都帝国大学時代・憲法学への道 4. 鈴木憲法学の成立 5. 挫折期 6. 日本国憲法の間接的起草者 むすび、で詳述されています。

○著書の最後の「むすび」(鈴木先生の「学問と行動」)の章を、そのまま転載いたします。

むすび

鈴木先生の「学問と行動」をまとめてみますと、鈴木先生は、第一に、民衆の「幸福」のこと、更に、社会的弱者(子ども・女性・障害をもつ人)の「幸福」のことを考えて学問をされ、行動された研究者であった。

第二に、鈴木先生は、生涯をかけて、「社会科学としての憲法学(憲法科学)」の発展に取り組まれた。

第三に、鈴木先生は、「大東亜共栄圏」に傾斜され、侵略戦争である「アジア・太平洋戦争」を肯定されたことを反省されて、第二次世界大戦後、すべての戦争を否定した日本国憲法の普及・擁護・発展に、お亡くなりになるまで尽力された。

第四に、鈴木先生は、天皇制国家権力による自己の思想弾圧の経験から基本的人権及び国民主権とそれに基づく民主主義の

の大切さを力説され、お亡くなりになるまで、基本的人権及び国民主権とそれに基づく民主主義の普及・擁護・発展のために尽力された。また、大学の教員(1951年12月、静岡大学の教員、1952年5月、愛知大学の教員、1967年4月、立正大学の教員)になられてからは、学生の人権擁護にも、献身された(例えば、静岡大学の教員の時、静岡県の公安条例違反<無届デモ行進>で逮捕<1951年5月1日>され・起訴された学生を救うために、特別弁護人となって、法廷で学生を弁護し、無罪<静岡地方裁判所>を勝ち取りました)。

第五に、鈴木先生は、能力の優れた者がしてはいけないこと――権力者や有産者の民衆攻撃に協力すること、をされなかった。

鈴木先生は、“さすががしい”研究者であったと思います。

以上が、私たちが鈴木先生から受け継ぐべきものではないかと思っています。

(著書80～81ページより)

三姉妹が語る 家庭での鈴木安蔵先生

『鈴木安蔵先生生誕百年記念シンポジウムの記録

鈴木安蔵先生から受け継ぐもの』より

2004年8月7日、小高町（南相馬市小高区）浮舟会館で開催されたシンポジウムの貴重な記録から、“人間安蔵”の一面を抜き書きしてみました。

<長女鹿島理智子さん>

母の内助の功で

私は父が23歳の時の娘ですが、こういう場でお話することになり、あらためて父や母のことを考えました。

父の家は経済的余裕がなかったのに二高から京都大学に入った。お姉様のテル伯母さんが、「あなたは好きなことをしなさい。私がいくらでも援助してあげる。このお金は武之介には内緒です。」とおっしゃっていたようです。父母が追われて京都から東京に移った頃も非常に貧しく、小高の林薬局鈴木武之介・テル夫妻や母方祖父の栗原基にかなりの援助をしてもらっていました。学問や研究の面では、栗原基、土井晚翠さん、吉野作造さんのお力添えもありました。

母についてですが、寒風吹きすさぶ中で獄中の父のために“小さい子供を背負って”（実は私を背負って）、神田の古本屋で要請の古本を探し求めたり、また独学で学んだロシア語で文献の翻訳を行ったり、さらに1932年のこと、ブルジョアではなく無産者のための託児所の設立に情熱を傾け、島崎こま子（藤村の姪）への援助など、女性の自立を考えていました。父のために母は大変苦勞し、「内助の功」と考えています。

<次女川井耿子さん>

文学を愛した父

父は意外と多趣味で、学問の合間に人生を楽しんだと思います。

玉露を丁寧に入れて味わい、墨を擦って書を書いたり、母は



クラシックの洋楽が好きでしたが、父は邦楽の常磐津や清元などを時々聴いていました。私は下手くそと思いますが、短歌も詠んでいました。八ミリ映画を撮ったり、写真に熱中し下馬の家の押し入れを暗室に改造して現像していたり。

そして、あらゆる文学を愛して何でもよく読んでいました。私にも食事の時など小説や詩の話をしてくれて、北原白秋、藤村、啄木、牧水などが好きで、歌や詩の一節などをよく口ずさんでいました。

<三女高木露子さん>

学問一筋の父

私たち三人の娘は、父安蔵が「知情意」ということで名付けた

と思います。長女の「理智子」の智は理智、次女の「耿子」は意志の人という意味、三女の私は情、感情の露で「露子」と名付けてくれたようです。

私が幼い頃ずっと、三回の食事ごとに二階の書斎にいる父に、階段の下から「ごはんですよ」と叫んで呼び、食事を終えた父はまた二階に戻り書斎にこもっていたという感じでした。

終戦の年に疎開から帰り、父の散歩にお伴すると、いつも世田谷の三軒茶屋あたりの古本屋ばかりでした。一階も二階の父の書斎も、基地や人権問題の書物や三種類の新聞が山積みで、書き損じた原稿用紙の裏面で遊んだり。私にとって父は学問一筋だったという印象です。

1983年5月、眼底出血があって仕事や学問も思うようにいかなかったと、父は泣いていたようです。紙に「ありがとう」と書き、8月7日79歳で死去します。

※この本は2005年12月に発行、絶版です。

日野・市民自治研究所 11月19日・20日、30名

「福島被災地と鈴木安蔵の

生まれきた小高を訪ねる旅」

安蔵 つうしん

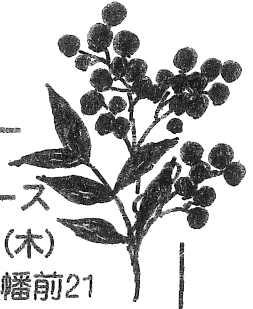
No.6 「鈴木安蔵を講える会」ニュース

発行：2022(令和4)年12月 8日 (木)

〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21

(「鈴木安蔵を講える会」会長) 志賀勝明

TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524



憲法のルーツ探る

原案起草 故鈴木安蔵氏の故郷

小高で学習ツアー

日本国憲法の原案起草の中心人物だった憲法学者、故鈴木安蔵氏の故郷の南相馬市小高区を訪ねるツアーは19、20の両日、繰り広げられた。20日は鈴木氏に師事した立正大学の金子勝名教授が同行し、鈴木氏の生家や新たに建立された案内板などを見学した。

ツアーはまちづくりを研究する東京都日野市の市民団体が主催し、会員ら約30人が参加した。「鈴木安蔵を講(ただ)える会」の志賀勝明会長(相馬市在住)が鈴木氏の生家を案内した。東京電力福島第1原発

事故の影響で取り壊されそうだった生家を、埋立住民や南相馬市の尽力で国登録有形文化財にし、保存している経緯を説明した。小高区内の浮城文化会館内では金子名教授が、鈴木氏の生い

ちや世界に誇る平和憲法の礎を築いた功績を解説した。

ツアーでは浪江町にある震災遺構の語り小や双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館なども訪れ、震災の記憶と復興の現状に理解を深めた。

案内板は講える会が今月、生家の前に建立した。鈴木氏の写真とともに業績や家屋の文化的価値を紹介している。



マイクを手に鈴木氏の生家を案内する志賀会長



新たに建立された案内板

▲2022年11月21日 『福島民報』

鈴木家住宅訪問の会員さんより

「日野・市民自治研究所」創立20周年記念企画
「日本国憲法」起草案の源流を探る
被災地・南相馬スタディツアー
有意義だった小高区の見学
認定NPO法人「日野・市民自治研究所」
理事 齋藤淑人

「日野・市民自治研究所」は2002年に、「市民一人ひとりが自らの生活体験を踏まえて集団的な学習と研究を進め、市民自身が創造する豊かな地方自治、文化都市を実現するための発信基地となることをめざし」、東京日野市を拠点とするNPO法人として設立されました。

現在、「憲法講座」と「定例研究会」をそれぞれ隔月で実施しています。2019年1月の憲法講座では、金子勝先生（立正大学名誉教授）に「日本国憲法の『間接的起草者』鈴木安蔵」というテーマで講義していただきました。

このことがきっかけで、今回の南相馬・小高を訪問する企画が実現しました。また、今年は研究所の創立20周年にあたり、記念企画として被災地でもある南相馬市周辺を訪問するスタディツアーを実施した次第です。

今回、金子勝先生にご助言をいただいたところ、先生ご自身も参加され、浮舟会館で講義していただくことになりました。志賀会長にも鈴木安蔵旧宅見学や説明をお願いできました。

小高文学資料館倉庫には、鈴木安蔵関係の貴重な資料が百点近く保管されておりますが、今回、特別に関係資料30数点も閲覧させていただきました。これらの資料、特に戦前の出版物や安蔵の相馬時代の少年・青年期の写真などの資料は市立博物館の資料として、保存展示していただければと願う次第です。

今回のツアーはたいへん充実した企画となり、参加者にとっても有意義な旅でした。

「鈴木安蔵を讃える会」の皆様をはじめ、南相馬市浮舟会館（生涯学習課）や宿泊・交流会会場の丸屋グラウンド等、ご協力をいただきました相双・南相馬の皆様にご感謝する次第です。

鈴木安蔵のことを 多くの人々に知ってほしい

「鈴木安蔵を讃える会」
会長 志賀勝明

全国各地の鈴木安蔵を讃える会の会員、あるいはご協力くださいました皆様、2020年の会発足以来、ご理解とご支援に心から御礼を申し上げます。

この『安蔵つうしん』でお知らせのように、鈴木家のご理解を得ながら、南相馬市教育委員会さんのご指導のもと、私ども役員は試行錯誤を重ね、鈴木安蔵住宅の保存、修繕、清掃、管理に努めてまいりました。

これまでコロナ禍のため、役員会も総会も書面の会議で行ってききましたが、ようやく10月30日、小高区の浮舟会館で役員会を開催し、今後の活動についていろいろ話し合いました。

お陰様で、住宅の修繕や清掃、「鈴木安蔵生誕之地」の案内標柱やつい1カ月前には「説明看板」を設置することができました。今後、今年3月の地震で崩れ落ちた土壁の修復、住宅前の駐車場の整備、寄贈図書や整理や保管、等々課題はたくさんありますが、ひとつずつ解決していきたいと話合っています。

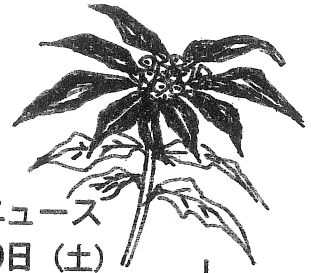
役員は全員、小高区を遠く離れたところに住み、そこから活動していること、また高齢者が多く、若い方への呼びかけや参加も大きな課題です。

そして私は何より、一般市民の方々が郷土の偉人なのに「鈴木安蔵」をあまり知らないことが残念でなりません。今後、学校や様々な場で訴え、方法も工夫して皆様に知っていただくよう努力していきたいと考えています。

今後共、皆様の一層のご支援を重ねてお願い申し上げます。

コロナ禍の中、また向寒の折、ご自愛の上お過ごしください。

2022年12月1日 記



安蔵 つうしん

No. 7 「鈴木安蔵を讃える会」ニュース

発行：2022(令和4)年12月10日(土)

〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21

「鈴木安蔵を讃える会」会長 志賀勝明

TEL・FAX 0244-26-4645 携帯 090-9530-5524

《会員さんより》

会員さんからご便りをいただきました。
さらにご寄稿をお寄せください。

郷土の誇り 鈴木安蔵

福島市 渡部幸一

私は小高区の大富生まれですが、郷土にこの様な偉人のいることを知ったのは、2001年に教職を退き、その後まもなくして結成された「福島県9条の会」の運動に参加するようになってからのことです。特に、映画『日本の青空』を観てから、その研究歴や現憲法へ大きな影響を与えたことを知ることができました。

さらに驚いたのは、安蔵の家は林薬局だということを知ったことです。双葉高校へ通った3年間は、この近くの同級生の自宅の店—お菓子屋・呉服屋・種屋—に度々遊びや買い物で行っていましたので、林薬局の位置はよく知っていました。また、内郷二中に就職したばかりの1963(昭和38)年5月のこと、小高駅から汽車に乗る前に(この頃は私も少し物心がついて、この方はそういうことに理解のある人と聞いていたので)職場の労働問題で薬局のご主人に相談したことがあるのです。後で安蔵との関係を知ってびっくりしました。

数年前、原発事故で福島へ避難していた小高の方の案内で安蔵の家を二度ほど見せていただきました。その頃は、「この家は壊される予定だ」と言うので、しっかりとカメラに収めたものでした。「はらまち九条の会」や「小高九条の会」の皆さんのお力で保存されると言うお話を聞き、大変嬉しく思います。何か行事のある時は私も参加させてください。

(福島県九条の会・はらまち九条の会会員)

鈴木安蔵は不可欠の存在

『日本の青空』を授業の教材に

宮城県 豊永敏久

私は宮城県立の高校で社会科の教員をしています。2007年に映画『日本の青空』を鑑賞して以後、毎年必ず授業で鈴木安蔵について話しています。2017年度に「日本史A」を担当し、受験対策ではなく一般教養として近現代史を授業したとき、時代考証のしっかりした映画を教材にしようと思って、憲法9条の会からDVDを借りて『日本の青空』を見せたら、生徒たちにたいへん好評でした。そこで翌年度からは「現代社会」の授業でも上映するようになって、いまや鈴木安蔵と『日本の青空』は、私の授業に不可欠の存在です。

鈴木安蔵を国民の常識に

「日本国憲法はアメリカから押し付けられたものだ」という誤解をしている高校生は最近では減少している印象ですが、「マッカーサー草案が実は鈴木安蔵たちによる憲法研究会案を参考にしていた」ことはさすがに初耳のようです。多くの日本国民が戦後日本の土台にある憲法の歴史をよく知らずに生活することは不幸なことですし、復古的な政権が「押し付けられた」憲法の改悪を国民に「押し付ける」ことは絶対に許されない、と私は思います。

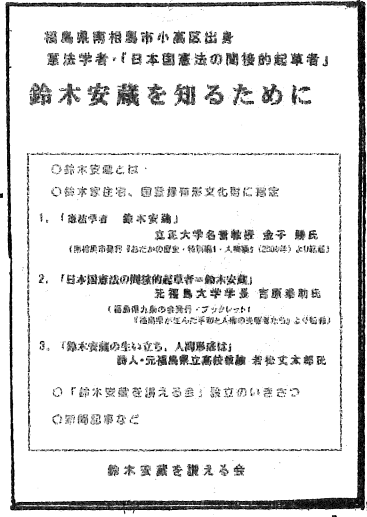
鈴木安蔵を日本国民の常識にし、憲法改悪を阻止するため、私は今後も「鈴木安蔵を讃える」授業を続けていきます。

(宮城県宮城野高等学校教諭)

＜事務局より会員の皆さまへ＞

『鈴木安蔵を知るために』届いていますか

◆昨年暮れに総会資料とともに、＜右＞のような冊子『鈴木安蔵を知るために』を全会員に郵送いたしました。その後入会された方などで届いていない方は、志賀勝明会長が、事務局山崎健一へお申し出ください。



◆お名前や住所が不明の方が5名、お心当たりの方お知らせください。

- ①ヒキ〇〇コ様 (女性 2021年7月8日10,000円入金)
- ②カトウ〇ワ様 (女性 2021年8月31日10,000円、2022年7月4日2,000円入金)
- ③カトウ〇〇オ様 (男性 2021年10月21日2,000円入金)
- ④オガタ〇〇ハチ様 (男性 2021年11月8日10,000円入金)
- ⑤ヨケ〇〇シ様 (2022年5月16日2,000円入金)

以上の5名の方が、通帳にカタカナ氏名だけで会費を振り込まれていますが、「入会申込書」の提出もなく、正しいお名前や住所などが不明です。個人情報保護のためカタカナ氏名の〇〇を伏字にしましたが、お知り合いの方など、お心当たりがございましたら事務局へご連絡ください。



◆恐縮ですが今年2022年の会費未納の方、納入をお願いいたします

会員と協力者369名のうち230名の方が納入済みですが(うち56名が5年分を一括納入済み)、まだ130名の会員さんが今年2022年度の会費が未納です。今後も住宅の修繕などで支出が予定されています。大変恐縮ですが、納入をよろしくお願いいたします。

会費・協力金の納入方法 ※領収書ご希望の方はお申し出下さい。

1. 振込先：あぶくま信用金庫小高支店 口座番号：0292418
受取人：鈴木安蔵を讃える会 代表者志賀勝明
2. 又は、会長志賀勝明宛か事務局山崎健一宛に郵送か、手渡しする。
○〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21 志賀勝明宛
TEL・FAX0244-26-4645 携帯電話090-9530-5524
○〒960-8055 福島市野田町7-8-53-305 山崎健一宛
TEL090-7527-5453 メール：yamazakiken1@gmail.com

＜本会役員＞ 役員の居住地は()のように、鈴木安蔵住宅の南相馬市

小高区から遠く離れた地に住み、そこから活動しています。 <敬称略>
 会長：志賀勝明(相馬市) 副会長：大友章生(相馬市) 國分富夫(相馬市)
 事務局：山崎健一(福島市) 若松麟二(南相馬市原町区)
 監事：大内秀夫(相馬市) 高橋 彰(南相馬市原町区)
 顧問：鈴木新樹(横浜市) 平田慶肇(南相馬市原町区) 菅田俊雄(福島市)
 学術参与：金子勝(東京都) 今野順夫(福島市) 阪本尚文(福島市)

